



フォーラムたより

2016
10月号
No. 48

首都圏布教御礼祈願祭 並びに東日本大震災復興祈願祭

教団独立記念祭の前日に当たる6月11日、金光北ウイングやつなみ南ホールで、第27回首都圏布教御礼祈願祭並びに第6回東日本大震災復興祈願祭が仕えられ、143人が参拝した。

この祭典は、天地金乃神様、生神金光大神様、金光四神様・歴代金光様、そして首都圏布教にご尽力された直信先覚先師先人356柱のご霊神に、今日までの首都圏布教の御礼と、これからの展開を願って仕えられ、平成30年には首都圏布教130年のお年柄を迎える。

祭典に先立ち、今日までの首都圏布教の歩みが映像で紹介された後、福田光一フォーラム副議長を祭主に祭典が仕えられた。



祭主は祭詞で、直信先覚先師の神に向かう揺るぎない信念と東方伝道に捧げた篤き御心に思いをは

せながら、御霊神達が一世をかけた首都圏布教の上の立て残された御功績を称え、難儀に満つる世界に神と人との取次に立つ金光大神

ささげた。

教話では、安西宏太先生(千葉県教会連合会長・木更津南教会)が「伝わるもの」と題して、父である教会長や親教会長から教わったことを振り返りながら、「今では、親先生から教えて頂いたことを、私が言わせてもらおう立場になった。それは、伝えようと思つて伝わってきたものではなく、伝わるものだからこそ伝わってきたものではないかと思つている。昨年、長男が学院を卒業し、一緒に教会でご用を頂いている。その姿が昔の私の姿と重なり、後ろめたい気持ちからか、強く言えないところがある。

おめでとうございます

●四十年受褒教師

- 毛塚紀博師 (栃木県巴波教会)
- 石上美代子師 (東京都白金教会)
- 山口隆信師 (東京都砂町教会)

●新任教師

- 進藤寛子師 (埼玉県浦和教会)

しかし、言わなければならぬ時は必ず来る。その時、父から頂いてきた信心の内容を、子どもに伝えていけるように願っている。何をやるにしても、言葉に、態度に表していかないと伝わっていかない。私にもそういう時期が



あったからこそ、伝えるものを頂いてまいりたい」と話した。

平成30年に迎える首都圏布教130年に向けての新たな取り組みとして、祭典後は参拝者全員でお道筋に移動し、教主金光様のお退けをお見送りした後、神露酒造で祝宴が開かれ、40年受褒教師、新任教師が紹介された。



小澤浩氏講演会を開催

東京都教会連合会

6月4日(土)午後1時30分から、小澤浩氏(1937年生。元富山大学学長。近代日本民衆思想史・宗教史研究者)による講演会「人が助かることさえできれば人が助からねば世も助からぬ」が、金光教館(東京教会)内の「東方伝道記念会堂」及び「イーストホール」において開催され、330人が参聴した。



講師はま「学問では人が助からん」という金光大神の言葉を引用してみずからの学問体験を振り返ったあと、戦争体験と金光大神(の言葉)との出会いという二つのことが、今日の自分の原点であると語った。1945(昭和20)年8月の富山大空襲の体験や叔父さんの戦死などから、戦争による強いられた死が、いかに理不尽であり残酷であるかを分

と語った。このたびの講演会では、講演後に講師と信徒代表が懇談する場をもうけて、講演の内容をより深く理解しようとする新たな試みもなされた。多くの参聴者が、教外の研究者による講演に刺激を受け、中には金光大神の教えを『教典』であらためて学びなおしたいという声も聞かれた。講演の記録は、今年末に刊行の予定である。

ていた国際基督教大学の図書館で『金光教典』にふれたことにより、その後さまざまな人生の局面で、金光大神の言葉によって生きる力を得ることができた。金光教の研究を進めるうちに、戦争などの国家目的を超越する信仰者の生き方というのを知り、極限状態にあつてなお人助けに取り組む、人としての尊い生き方を教えられた。金光大神の言葉には、これらの時代社

神奈川・山梨教会連合会では、平成28年7月30日(土)、晴れ渡る夏空の下、神奈川県二宮海岸で「みんなのつどい その2 地引き綱集会」を開催した。

収穫の喜びと神様を実感



同連合会では「みんなのつどい」と銘打って、毎年、いちご狩り、さくらんぼ狩り、潮干狩り、ボーリングなどのレクリエーションを通じて、お道の仲間の交流と連帯を図っている。

今回の集会では、「天地の恵みと収穫の喜びと神様を実感」として11教会から26名が参加した。開会行事後、子どもから高齢者までが力を合わせて網を引き上げた。獲れた魚は、残念ながらごくわずか。それでも参加者から「もつと深く聞きたい」という意見が上がった。今後の連合会のあり方についても、情熱をもって道を伝えていけるような活動となるようにと確認され、充実感と笑顔の中で散会した。

運動推進を願って研修

茨城・栃木教会連合会では、6月25日(土)、小山市生涯学習センターにおいて、教師信徒合同研修会を開催し、32名が参加した。

参加者からは、「金光教が通ってきた歴史を学ぶ機会は少ないから、とても新鮮で興味深かった」という意見が上がった。今後の連合会のあり方についても、情熱をもって道を伝えていけるような活動となるようにと確認され、充実感と笑顔の中で散会した。

午後からは4班に分かれて班別懇談が行われ、その後の全体懇談では、各班から懇談内容について報告がなされた。



不平不満の声もなく、食物を天地の恵みとして、いつでも食物が手に入るのが当たり前ではないことを学んだ。

その後、食事、ゲームを通して楽しく知り合い交流し、天地を汚さないとの願いで砂浜の清掃「クリーン作戦」を行い閉会行事となった。その清掃活動を船宿の主人は、歓迎してくれた。更に、隣のグループから「どういう団体ですか?」と聞かれた。「あまりにも統制がとれているから...」とのこと。

参加した小学生は、「すごく楽しかった。秋のボーリング大会にまた参加したい」と笑顔で感想を話していた。

巧妙化する詐欺被害に遭わないために



群馬・埼玉教会連合会信徒部は3月26日(土)、3回目となる社会問題勉強会を大宮教会で開催し、16名が参加した。今回は地域にも金光教の活動を知ってもらうために、大宮教会周辺にチラシを配った。

はじめに大宮西警察署の女性警察官より、詐欺の手法の紹介や詐欺に遭わないための防止策を、映像と実例をあげてご指導いただいた。その後、全員で懇談しながら知識を深めた。

詐欺の形態は振り込み型から手渡し型へ変化し、名義貸し、有料サイト、電子マネーなどと次々に新しい手法が生まれているとのこ

大自然の中で貴重な体験

千葉県教会連合会では8月5日(金)〜6日(土)、清和県民の森(君津市)で第7回青少年少女の集いが開催され、20名が参加。その内青少年少女は6名であった。4、5日前から天気が悪く心配もあったが、当日は天候に恵まれ、夏の日差しの中、元気に行われた。

例年通り一日目はキャンプ場近くにある大滝で水遊び、そのあと竹を使って工作をした。工作では子ども達より弓矢が作りたいとのリクエストがあり、急ぎよ内容を変更して行った。刃物に慣れていない子ども達、使い方に不安があった。被害に遭わないためには、①普段から「留守番電話」に設定する②家族で合言葉を決めておく③すぐに振り込んだり手渡しするのではなく、家族、友人、警察に相談することが大切とのことであった。

あったが、おじいさんともいえる方たちから丁寧な教えを受けながら、みるみる上達した。作った弓矢ははじめうまく飛ばなかったが、だんだん飛ぶようになった。夕食はバーベキュー、猪肉の差し入れもあり美味しくいただいた。猪肉は思った以上に柔らかく、臭みもなく本当に美味しかった。



二日目は、ハイキング。二時間半かけて踏破した。昨年より多少良いこともあり貴重な体験をした。自然の中で、子ども一人ひとりがヒルに噛まれ、子ども達より大人の方がショックが大きかった。しかし、ヒルを知らない子ども達にとつて、ヒルを知る良いきっかけになった。

自然の中で、子ども一人ひとりがヒルに噛まれ、子ども達より大人の方がショックが大きかった。しかし、ヒルを知らない子ども達にとつて、ヒルを知る良いきっかけになった。

ボランティア募集!

東日本大震災避難者と支援者による
ふれあいフェスティバル

日時: 10月23日(日) 9:30 ~ 16:30

※フェスティバルは 10:30 ~ 15:30

場所: 都立光が丘公園 芝生広場

東日本大震災で、東京や関東地域に避難している方と支援者による交流会が上記の日程で開催されます。

昨年の「ふれあいフェスティバル」、「お正月準備の会 in 町田」に引き続いて3回目の参加となります。

金光教首都圏災害ボランティア支援機構では、子ども達を対象にしたブースを出展しますので、老若男女問わず、お手伝いのできる方のご参加をお待ちしています。

ボランティアの応募、詳細につきましては、金光教東京センター(TEL03・3818・6321 メール tokyo@konkokyo.or.jp)までお問い合わせ頂くか、支援機構ホームページをご覧ください。

<http://shutoken.konko.jp/support/>